

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

|         |                      |
|---------|----------------------|
| 事業所番号   | 3891000063           |
| 法人名     | 有限会社 オアシス            |
| 事業所名    | グループホームぽかぽか(ふたみ)     |
| 所在地     | 伊予市双海町大久保字石の久保甲974-8 |
| 自己評価作成日 | 平成29年1月31日           |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |  |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 |  |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                   |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会 |
| 所在地   | 松山市持田町三丁目8番15号    |
| 訪問調査日 | 平成29年2月27日        |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・水仙や菜の花、海岸線の桜並木や梅雨の時期の紫陽花など季節ごとに咲く花や、夏の潮風を浴びながらの日向ぼっこ・夕方にはきれいな夕日が差し込むとても恵まれた自然環境の中で、季節を感じる事が出来る。  
・「ホームは家庭の延長」をモットーに炊事・洗濯・掃除など、自分たちが今できる事を役割として、互いに助け合いながら一つの家族となって生活している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3月菜の花に囲まれた事業所は、伊予灘を望む高台に立ち、テラスからは美しい夕日を楽しむことができる。職員心得として掲げている「いつもここにこ ぽかぽか家族」には、明るくぬくもりのある一つの大きな家族という意味が込められており、職員は利用者が残された力を発揮しながら、助け合って生活できるよう支援している。事業所では、開設当初より、地域に開かれ頼られる事業所を目指して積極的に地域交流に努め、その成果が出ている。地区の農道の整備や草刈りに参加したり、今年度は高校生と大学生のグループが訪れ、窓拭きや清掃等を手伝った後、利用者と一緒に昼食を食べて楽しいひと時を過ごした。恒例になった餅つき大会は地域住民の参加もあり盛大に行われている。また、今年度、市の要請を受けて地域で開催される認知症予防講座に職員が講師として招かれている。医療面では、専任の看護師を複数名配置して協力医と24時間医療体制を整え、利用者や家族の要望に応じて看取りに取り組んでいる。職員は意欲的に研修に取り組み、さらなるサービスの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 |   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   | 項目 |   | 取り組みの成果<br>↓該当する項目に○印 |   |
|----|---|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)        | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいの<br>3. 利用者の1/3くらいの<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)     | ○                     | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)              | ○                     | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                       | ○                     | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                    | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○                     | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くない            |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)     | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66 | 職員は、生き生きと働いている<br>(参考項目:11,12)  | ○                     | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                   | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う   | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)          | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                     | ○                     | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている<br>(参考項目:28) | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |    |   |                       |   |



(別表第1)

## 自己評価及び外部評価表

| 自己評価              | 外部評価 | 項目   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ)   |
|-------------------|------|--|---|---|
| <b>I.理念に基づく運営</b> |      |  |   |   |
| 1                 | 1    | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている   | <p>(自己評価)<br/>豊かな自然環境の中で季節を感じながら、自分たちのペースで毎日を過ごす。「家庭の延長」をモットーに、職員が寄り添い、利用者が互いに助け合いながら共に生活が送れるよう取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)<br/>開設当初に作成した理念を大切に継承し、職員の心得として、「いつもここにこ ぽかぽか家族」を掲げてケアに取り組んでいる。「ぽかぽか」には明るくぬくもりのある一つの大きな家族という意味が込められており、職員は利用者が残された力を発揮しながら、助け合って生活できるよう支援しており、ミーティングやケアカンファレンスで課題が見えた時は、理念に立ち返り考えるようにしている。</p>                          |   |
| 2                 | 2    | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している   | <p>(自己評価)<br/>地域の行事(運動会・文化祭等)へ積極的に参加している。また、ホーム主催のイベントには、地域住民や民生委員・ボランティアの方々を御招待しているが、まだまだ、日常的なつながりには達していない。</p> <p>(外部評価)<br/>事業所では、近所付き合いを大切にしたいと考え、地区の農道の整備や草刈りに参加したり、地域の行事に積極的に参加している。公民館祭りは神輿を制作して展示したり、3箇所の小学校運動会に参加して子どもたちと交流を楽しんでいるほか、今年度は高校生と大学生のグループが訪れ、窓拭きや清掃等を手伝った後、利用者と一緒に昼食を食べて楽しいひと時を過ごした。恒例になった餅つき大会は地域住民の参加もあり盛大に行われている。</p> | 開設当初より地域交流に努め、積極的に地域行事に参加して関係を深めてきているが、管理者は、さらに地域の人々に事業所に来てほしいと考えている。今年度、市からの要請を受けて地域で開催される認知症予防講座に職員が出向き、事業所で行なっている指体操の指導を行っている。講座参加者を通して、さらに地域住民との関係を広げていくことを期待したい。 |
| 3                 |      | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | <p>(自己評価)<br/>運営推進会議やイベントを利用し、利用者と一緒に過ごす機会を作り、認知症についての理解を深めて頂けるよう努力している。</p>  |   |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------|------|---|---|-------------------------------|
| 4    | 3    | ○運営推進会議を活かした取組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実<br>際、評価への取り組み状況等について報告<br>や話し合いを行い、そこでの意見をサービ<br>ス向上に活かしている      | <p>(自己評価)<br/>活動報告・勉強会・親睦会などをテーマに開催している出来<br/>る限り利用者を交えて行える議題を開催し、時には茶話会形<br/>式で雑談をしながら、意見・要望が気軽に言える雰囲気を作<br/>るなどしている。</p> <p>(外部評価)<br/>運営推進会議は利用者や家族、民生委員、市職員の参加を得<br/>て2か月に1回開催している。開催にあたっては、地区民生<br/>委員及び家族全員に案内を送付し、開催後は議事録を返送し<br/>て家族の理解を得られるよう努めている。会議では、活動報<br/>告のほか、マイナンバー制度や土砂災害防止等、時々の課題<br/>をテーマとして挙げたり、そうめん流しや餅つき大会等事業<br/>所行事と一緒に開催し、より多くの人々の参加を得て事業所<br/>の理解を深めてもらうとともに、意見や提案を聞く機会にし<br/>ている。</p> |                               |
| 5    | 4    | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、<br>事業所の実情やケアサービスの取組みを積<br>極的に伝えながら、協力関係を築くように<br>取り組んでいる                | <p>(自己評価)<br/>必要に応じて、訪問や電話で相談し協力して頂いている。運<br/>営推進会議に参加いただいた時には、意見・感想・アドバイ<br/>ス等を頂いている。</p> <p>(外部評価)<br/>運営推進会議に毎回市職員が参加しており、情報交換を行う<br/>ほか、講師紹介や関係機関との連携の取り方等助言を得て運<br/>営に生かしている。成年後見制度の活用が必要となった利用<br/>者に対し、地域包括支援センターに相談し支援を受けた経験<br/>がある。また、市から各種研修会の案内があり、参加してい<br/>る。</p>  |                               |
| 6    | 5    | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定基準におけ<br>る禁止の対象となる具体的な行為」を正し<br>く理解しており、玄関の施錠を含めて身体<br>拘束をしないケアに取り組んでいる | <p>(自己評価)<br/>拘束のないホームを目標に取り組んでいる。年一回は、内部<br/>研修の項目として学び、職員が日々の業務や対応を振り返<br/>える機会としている。</p> <p>(外部評価)<br/>身体拘束廃止マニュアルを作成して、拘束をしないケアに努<br/>めているが、「座って下さい。」という声かけ等が拘束にあ<br/>たるかどうか曖昧な場面もあり、改めて研修の機会を持っ<br/>た。研修を受けた職員にはレポート提出を義務化し、理解で<br/>きているかを確認している。転倒の危険のある利用者に対<br/>しては行動を抑制することがないように、寄り添って一緒に歩<br/>いている。言葉の拘束についても、職員同士が互いに注意し<br/>合って気を付けている。</p>  |                               |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ)   |
|------|------|---|--|---|
| 7    |      | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている       | (自己評価)<br>年一回は内部研修の項目とし学んでいる。特にホーム内での口調や声の大きさに気をつけ、職員同士で注意し合えるよう努めている。   |   |
| 8    |      | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | (自己評価)<br>後見人制度については、過去に勉強会を開催したが、職員全員が理解できるまでには至っていないため、今後も勉強会の機会を作りたい。現在、地域包括支援センターと連携し、申請中である。  |   |
| 9    |      | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                      | (自己評価)<br>見学時や契約の際、出来る限り丁寧に説明するように努めている。改定事項については、事前に説明文を作成し同意を得るようにしている。契約後も家族が気軽に相談できる関係作りに努めている。  |   |
| 10   | 6    | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                   | (自己評価)<br>運営推進会議や面会時に声掛けをさせて貰っている。意見や要望は、各利用者の担当職員より全員に申し送り周知できるように努めている。<br><br>(外部評価)<br>家族面会時には声かけをして利用者の近況報告をし、その際に家族からの要望も聞くようにしている。来訪が難しい家族には、年2回「ぽかぽか通信」に担当職員が手紙を書いて送り、利用者の暮らしの様子を知らせるようにしている。面会に来る家族が少ないため、不足する物がある時はできる限り買ってきてもらうよう依頼し、来所の回数が増えるよう工夫している。 | 家族が意見や要望を出しやすい関係を築いていけるよう工夫をしているが、様々な理由で疎遠になっている家族も少なくないのが現状である。アンケート調査等を実施して意向や要望の確認を行い、さらに家族との協力関係が深まることを期待したい。 |

| 自己評価                        | 外部評価 | 項目   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|-----------------------------|------|--|--|-------------------------------|
| 11                          | 7    | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | (自己評価)<br>スタッフ会で参加者全員に意見や要望等を発言して貰っている。また、現場で職員と一緒に業務にあたりながら、職員が気軽に相談できる雰囲気作りに努めている。   |                               |
|                             |      |  | (外部評価)<br>2か月に1回ミーティングを開催し、ほぼ全職員が出席して意見や提案を行う機会を設けるとともに、毎月ユニット毎にケアカンファレンスを開催して職員の意見をケアに反映させている。事業所では人事考課制度を取り入れ、個人面談を行って職員の頑張りを評価するとともに、要望を聞く機会を設けている。また、法人では研修や資格取得を奨励しており、費用の一部を助成したり、職員が講師になって計画的に内部研修を実施する等、職員の意欲向上を図っている。 |                               |
| 12                          |      | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | (自己評価)<br>可能な限り、個々の希望休や勤務時間等を考慮している。職員の資格取得を支援し、職能給や手当として昇給に反映している。  |                               |
| 13                          |      | ○職員を育てる取組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている          | (自己評価)<br>個々の資格取得に向け、費用の一部援助や勤務時間内に研修等に参加できるよう支援したり、運営推進会議を兼ねた勉強会を開催したり、毎月、内部研修を実施しているが、職員の外部研修への参加意欲が低いため、改善して行きたいと考えている。   |                               |
| 14                          |      | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | (自己評価)<br>外部の各種研修に参加する事で、他の事業者と交流できる機会を持てると考えているが、積極的に研修へ参加しようとする職員が少ないのが現状であるため、今後改善して行きたい。   |                               |
| <b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |      |  |  |                               |
| 15                          |      | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている        | (自己評価)<br>入所前に本人と逢う機会を作り、困っていることなどを伺い情報収集を行っている。入所後も、声をかけたり他の利用者との日々の会話に耳を傾けるよう心がけている  |                               |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 16   |      | ○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている     | (自己評価)<br>契約前に何度か話をする機会を作り、聞き取りを行っている。面会時には、必ず声掛けを行い話しやすい関係づくりに努めている。   |                               |
| 17   |      | ○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | (自己評価)<br>入所前の生活状況をきちんと把握し、ご本人やご家族から得た情報を元に、必要としている支援について話し合い統一したケアが行えるよう努めている。   |                               |
| 18   |      | ○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                    | (自己評価)<br>「ホームは家庭の延長」1つの大きな家族。職員が支えながら、利用者それぞれが自分の出来る事を、役割として暮らして行けるよう支援している。   |                               |
| 19   |      | ○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている     | (自己評価)<br>ホームの行事に参加して頂いたり、受診や外食などの定期的な外出支援の協力をお願いしたり、出来る限り利用者さんとの関わりを持って頂く様にしている。   |                               |
| 20   | 8    | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている             | (自己評価)<br>地域周辺からの入所者が多く、地域の行事には積極的に参加している。ご家族の協力により、行きつけの美容室や買い物にも出かけている。   |                               |
|      |      |  | (外部評価)<br>入居時に、センター方式を活用して馴染みの関係を把握し、職員間で共有している。職員は地元の個人商店に付き添って買い物に行ったり、町民運動会、敬老会、文化祭に出かけて知人と出会えるよう支援している。別施設に入所している兄弟に会えるよう付き添うこともある。また、家族に協力を依頼して、馴染みの美容室に行っている利用者もいる。 |                               |

| 自己評価                               | 外部評価 | 項目  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------------------------------------|------|---|---|-------------------------------|
| 21                                 |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                | (自己評価)<br>それぞれが今、できる事を役割とし、互いに助け合いながら暮らせよう支援している。   |                               |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | (自己評価)<br>ご家族に会う機会があれば、様子を伺ったりしている。長期入院の場合、可能であれば、再入所の相談にもものっている。   |                               |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |   |   |                               |
| 23                                 | 9    | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                        | (自己評価)<br>入居時にご本人やご家族より、今までの生活歴や趣味などの聞き取りを行っている。日々の生活の中での言葉や表情を観察している。<br><br>(外部評価)<br>入居時に利用者と家族から情報を収集し、生活歴や生活環境を把握して理解に努めている。入居後はソファに腰掛けてゆっくりしている時間に話しかけるなど、何気ない昔話の中から思いを汲み取っている。職員は、利用者が思いを表しやすいよう一人ひとりに合った問いかけを工夫し、気持ちを引き出すよう努めている。思いを現すことが困難な利用者は、表情や動作で推測したり、家族に聞いて理解するよう努めている。 |                               |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                    | (自己評価)<br>ご本人やご家族からの情報に加え、入所前の居宅ケアマネからの情報もあわせて把握し、職員間で共有できるように努めている。  |                               |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている                                  | (自己評価)<br>利用者1人1人のリズムで生活をしていただけるよう支援している。1日の様子・状態の変化や気づきを記録し職員間で共有している。   |                               |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 26   | 10   | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | (自己評価)<br>毎月、担当者による介護計画のサービス内容の実施を評価・3ヶ月毎にモニタリング・6ヶ月毎に担当者会議を開催しご本人・ご家族の意向を確認して担当者も交えプランを作成している。<br><br>(外部評価)<br>計画作成担当者が電話等により家族に現在の利用者の状況を伝え、今後どのように生活してほしいか意向を確認した上で、職員と話し合って介護計画を作成している。担当者を決めて毎月1回モニタリングを行い、状態の変化があった場合はその都度、ない場合は6か月毎にカンファレンスを開催して介護計画の見直しを行っている。介護計画が職員の独りよがりにならないよう、可能な限り家族にも話し合いに参加してもらっている。介護計画書は、家族の面会時に説明して同意を得るようにしており、困難な家族には手紙を添えて郵送し、承諾を得ている。 |                               |
| 27   |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | (自己評価)<br>1日の様子を記録に残し、表情や行動に変化があれば詳しく観察し、申し送りにて情報を共有するようにしている。目標の実施状況を毎日チェックし、統一したケアが出来るように取り組んでいる。   |                               |
| 28   |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | (自己評価)<br>利用者の家庭状況の問題から、生活保護の申請や成年後見人制度の申請を行った事がある。   |                               |
| 29   |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                         | (自己評価)<br>ホームのイベントに民生委員さんなどを御招待したり、2,3ヶ月毎にボランティアの訪問、訪問美容師の来訪などを行っているが、十分な地域資源の活用には至っていない。   |                               |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 30   | 11   | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に<br>し、納得が得られたかかりつけ医と事業所<br>の関係を築きながら、適切な医療を受けら<br>れるように支援している  | (自己評価)<br>月2回の内科医往診・必要時に歯科医往診あり。夜間の急変時<br>には24時間ONコール体制をとっている。また、家族の協力で<br>以前からのかかりつけ医も継続して利用できるようにしている。<br><br>(外部評価)<br>利用者と家族の希望に沿って、入居前のかかりつけ医を継続<br>して受診することができる。協力医が月2回訪問診療に訪<br>れ、必要に応じて往診もしてもらえるため、入居時に協力医<br>をかかりつけ医に希望する利用者が多い。歯科医の往診治療<br>を受けることもできる。また、看護師3名が職員として勤務<br>しており、日常の健康管理を行っている。専門科の受診が必要<br>な場合は家族が付き添っており、看護師が必要な情報を提供<br>している。家族の付き添いが困難な場合は看護師が同行し<br>て、治療を継続できるよう支援している。                                |                               |
| 31   |      | ○看護職との協働<br>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた<br>情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問<br>看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が<br>適切な受診や看護を受けられるように支援<br>している                           | (自己評価)<br>利用者の身体の変化や急急変事には、昼夜問わず、看護師へ<br>の連絡が可能であり、すぐに対応できる体制をとっている。<br>協力医の指示のもと適切な医療が受けられるよう支援してい<br>る。   |                               |
| 32   |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療でき<br>るように、また、できるだけ早期に退院でき<br>るように、病院関係者との情報交換や相談<br>に努めている。または、そうした場合に備<br>えて病院関係者との関係づくりを行っている。    | (自己評価)<br>入院の際、情報提供を行い安心して治療が出来るようにして<br>いる。ケアマネ・看護師が病院の医師・看護師・相談員等と<br>面談し退院への話し合いを行うなどしている。   |                               |
| 33   | 12   | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支<br>援<br>重度化した場合や終末期のあり方につい<br>て、早い段階から本人・家族等と話し合い<br>を行い、事業所でできることを十分に説明<br>しながら方針を共有し、地域の関係者と共<br>にチームで支援に取り組んでいる | (自己評価)<br>早い段階で主治医・家族を交え、病状について・今後の方<br>針・本人や家族の意向等を話し合っている。ホームで出来る<br>ことをきちんと説明し、状況が変化する度に状況説明を行っ<br>ている。過去3名の看取りを経験。関わった職員のケアにも注<br>意を払うように努めている。<br><br>(外部評価)<br>看取りに関する基本指針を作成し、利用者と家族の要望に応<br>えて看取りを行っていく方針を入居時に伝えている。事業所<br>は3名の看護師が配属され、内1名は夜間専門の看護師とし<br>て勤務しており、協力医と連携しながら24時間医療体制を<br>整えて緊急に備えている。今までに3人の看取りを経験し、<br>穏やかな最期を看取った経験は職員の自信にもつながってい<br>る。事業所では看護師が講師になって研修を行い研鑽を積む<br>とともに、職員アンケートを取って今後の看取りに生かそう<br>としている。 |                               |

| 自己評価                             | 外部評価 | 項目   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|----------------------------------|------|--|---|-------------------------------|
| 34                               |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | (自己評価)<br>ホーム内の研修として救急救命士の指導による訓練を開催し、急変時に素早く対応できる技能を身につけられるようにしている。今後も講習会を継続して行いたい。  |                               |
| 35                               | 13   | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | (自己評価)<br>年2回避難訓練を行っている。土砂災害危険区域が近いため年1回は、伊予市合同の土砂災害避難訓練に参加し訓練している。昨年、県政出前講座を利用し、土砂災害についての勉強会を開催した。また、3日分程の備蓄品を準備している。  |                               |
|                                  |      |  | (外部評価)<br>年2回、日中と夜間を想定し避難訓練を実施している。事業所が土砂災害危険区域に指定されており、年1回行われる伊予市合同の土砂災害避難訓練に参加して検証を重ねている。今年度は運営推進会議に愛媛県担当課職員に来てもらって講演を聞く機会を持ち、避難計画策定にあたっての留意点について指導を受け、計画を作成することができた。また、備蓄品については、3日分の水や食糧等を戸外にロッカーを設置して収納し、定期的に賞味期限の点検を行っている。 |                               |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |   |                               |
| 36                               | 14   | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている         | (自己評価)<br>威圧的になら無いよう注意し、どうしたいのか？問いかける声掛けをして利用者の意思が尊重できるよう努めている。また居室やトイレの扉の開閉にも注意している。   |                               |
|                                  |      |  | (外部評価)<br>利用者一人ひとりの気持ちを尊重し、希望に沿った支援ができるよう努めている。職員は、利用者がしたいと思うことを利用者のペースで自由にしてもらえよう心がけている。利用者を呼ぶ時は姓や名前にさん付けで呼ぶのを基本とし、過度な馴れ合いにならないよう配慮している。また、個人情報の取扱いには十分に留意しており、適切に管理している。  |                               |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている           | (自己評価)<br>利用者の意思が確認できるように「～しますか？」[どうしますか？]と問いかける声かけをし自己決定が出来るようにしている。   |                               |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 38   |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | (自己評価)<br>ケアプランや日課に添って本人のペースで1日が過ごせるよう支援している。出来る限り本人の希望を優先するように努めているが、時にはホーム側の都合で動いてしまう事もある。  |                               |
| 39   |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | (自己評価)<br>ボランティアの美容師さんにカットをお願いしたり、可能な方にはご自身で洋服を選んで更衣して頂いている。外出時にはお化粧品などをしておしゃれを楽しむ事が出来るよう支援している。  |                               |
| 40   | 15   | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | (自己評価)<br>その日の食材の下準備から、盛り付け・配膳・下膳・後片付けまでが日課となっており、全ての利用者が何らかの作業に関われるようになってきている。また、「試食会」を開催しご家族と一緒に昼食を食べ、利用者の作業風景を見て頂いたり、味の感想等を伺う機会を設けた。   |                               |
|      |      |  | (外部評価)<br>専任の調理員2名が献立を立て、ユニットで調理をしている。栄養バランスを考え、減塩食になるよう必ず酢の物を献立に入れるように決めている。野菜の多くは事業所の畑で収穫することができ、その他の食材は週2回利用者とともにスーパーに買いに行っている。利用者は食材を切ったり、食器を洗うなど、できることを手伝っており、各自が食膳を運んでいる。誕生日には特別に工夫したケーキを作る等して皆で祝っており、つくし料理、柏餅、そうめん流し、餅つき等季節毎に特別メニューを用意して楽しんでいる。ドライブ先で外食をすることもある。 |                               |
| 41   |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | (自己評価)<br>水分・食事の摂取量のチェック表を使用し1日の摂取量の把握に努めている。荒刻み・小刻み・水分にトロミをつけるなど、個々にあった食事形態で提供している。  |                               |
| 42   |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                  | (自己評価)<br>毎食後、口腔ケアの声掛けを実施し、見守り・介助を行っている。毎晩就寝時に義歯を洗浄剤で消毒し清潔が保てるよう支援している。   |                               |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------|------|---|--|-------------------------------|
| 43   | 16   | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている          | (自己評価)<br>排泄チェック表を使用し、定期的にトイレ誘導を実施している。日中は利用者全員が可能な限りトイレでの排泄が出来るよう支援している。夜間帯は個々にパットを使用したり、ポータブルトイレを設置したりして対応している。  |                               |
|      |      |   | (外部評価)<br>一人ひとりの排泄パターンを記録して把握し、2時間おきに声をかけてなるべくトイレで排泄ができるよう支援している。入院中おむつを利用していただいていた利用者に対し、生活の中でリハビリを続けながら、職員が誘導をすることでトイレで排泄ができるようになった利用者もいる。利用者の排泄の状態によって職員が話し合い、家族とも相談しながら適した排泄用品を選択し、気持ち良く過ごせるよう、また自立に向けた支援に努めている。 |                               |
| 44   |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                          | (自己評価)<br>十分な水分摂取と適度の運動を日課に取り入れている。排便排尿チェック表を使用し、排便の有無を管理し、看護師に報告のうえ、薬を服用するなどの対応をしている  |                               |
| 45   | 17   | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | (自己評価)<br>入浴日の設定はあるが、午前中からお湯を貯めており、職員の声かけで誘導している。声かけの時点で拒否された場合は、少し時間を空けて再度声掛けを行ったりしている。支援方法は、見守りや全介助・一部介助・同性介助・二人介助など個々に合わせている。   |                               |
|      |      |   | (外部評価)<br>夏季は週3回、冬季は週2回入浴ができるよう支援している。利用者の状態に合わせて適切な福祉用具を活用し、浴槽に入れるよう介助している。浴槽への移動が困難な利用者は2人体制で入浴介助を行っている。職員は利用者が好きな時に好きな時間ゆっくりと入ってもらえるよう利用者のペースに合わせて支援している。時には入浴剤を入れて、気分転換を図ることもある。                                 |                               |
| 46   |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している                           | (自己評価)<br>夏は涼しく、冬は暖かく季節に応じて熟睡できるように寝具を準備したり、個々の希望で湯たんぽやあんか・電気毛布を使用している。シーツやカバーの洗濯・布団干しをこまめに行い気持ちよく眠れるよう支援している。   |                               |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 47   |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている   | (自己評価)<br>誤薬が無いよう注意し、名前を確認しながら服用して頂いている。薬に変更があった場合には、看護師より職員へ申し送りを行うようになっている。  |                               |
| 48   |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                              | (自己評価)<br>利用者は炊事・掃除・洗濯の中で、自分が得意とする事や今現在できる事を役割としてお互いに助け合って生活している。気分転換を兼ね、車椅子の方は車で、元気な方は歩いて買い物へ行ったり、季節ごとに外出も計画して実施している。   |                               |
| 49   | 18   | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | (自己評価)<br>週2回の買い物やドライブ・行事参加に加え、ご家族にも外出支援の協力をお願いしている。地元出身の利用者が多く、散歩をかねてお墓参りに行ったり春には、ホーム周辺の畑や土手でつくしやふきを取ったり、年末の餅つき用にヨモギを摘みに出掛けたりしている。<br>(外部評価)<br>天気の良い日は事業所周辺を散歩したり、週2回の買い物の日は利用者も一緒に出かけている。診療所に薬を取りに行く時は福祉用車輛を使用して、車いすの利用者を優先して一緒に出かけている。職員はできる限り全員の利用者が外出できるよう支援しており、春の菜の花や桜見物には弁当を持って出かけたり、地区で開催される盆踊り大会や秋祭り、他事業所で開催される納涼祭、公民館文化祭等積極的に外出している。双海トライアスロンを応援に行った時の様子は市の広報で紹介された。 |                               |
| 50   |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している                              | (自己評価)<br>一部の利用者ではあるが、外出時に買い物ができるよう支援している。持っていない方はホームで立替えて買い物したり、ご家族に面会を兼ねて買って来て頂いたりしている。  |                               |
| 51   |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | (自己評価)<br>希望時に固定電話を使用してご家族とやり取りができるようにしている。手紙や電話の対応が難しい方が多いため、出来るだけホームに足を運んで頂く様にご家族にお願いしている。   |                               |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 52   | 19   | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価)<br>各ユニットに利用者が作成したクラフト作品を飾りつけたり、写真を貼ったり、花を飾ったりして季節感を出している。各居室に利用者の表札を飾り、自分の部屋だと分かるようにしている。   |                               |
|      |      |  | (外部評価)<br>リビングにはオープンキッチンとダイニングテーブル、掘り炬燵のある畳の間があり、雛壇が飾られている。両ユニットの仕切りは開放されており、利用者が自由に行き来できる。壁には、利用者と職員が協力して作成した季節毎のクラフト作品が飾られている。テラスからは伊予灘を一望することができ、夕日を楽しむこともできる。事業所に広大な菜園があり、春先につくしが出来るのを利用者は楽しみにしている。    |                               |
| 53   |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | (自己評価)<br>廊下の所々に椅子やソファを置いており、自分たちの好きな所で座ってくつろげるようにしている。畳スペースもあり、そこは掘りコタツが設置できるようになっている。  |                               |
| 54   | 20   | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | (自己評価)<br>使い慣れたタンスや布団の持ち込みを可能にしており部屋の壁には自分で作った作品を飾っている。仏壇を持ってこられている方や家族との写真なども飾られている。  |                               |
|      |      |  | (外部評価)<br>居室にはベッド、テレビ、椅子、オイルヒーターが備え付けられており、利用者が自宅から持ち込んだ家具や事業所が用意した様々な形の家具が置かれており、どの部屋も異なった雰囲気や個性的な部屋になっている。最高齢の利用者の部屋には裁縫道具が置かれ、習字を書いている写真が飾られていて生活の様子を伺うことができる。本人が作成したクラフト作品や家族写真を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫されている。 |                               |
| 55   |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している  | (自己評価)<br>洗面所に口腔ケア用品を置ける棚に名前を表示する事で迷わず自力で使用する事ができている。居室入口には表札をかけたたり、作品を目印代わりに飾ったりしている。   |                               |

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

|         |                         |
|---------|-------------------------|
| 事業所番号   | 3891000063              |
| 法人名     | 有限会社 オアシス               |
| 事業所名    | グループホームほかほか(ふたみ)        |
| 所在地     | 愛媛県伊予市双海町大久保字石の久保甲974-8 |
| 自己評価作成日 | 平成29年1月31日              |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |  |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 |  |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                   |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会 |
| 所在地   | 松山市持田町三丁目8番15号    |
| 訪問調査日 | 平成29年2月27日        |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・水仙や菜の花、海岸線の桜並木や梅雨の時期の紫陽花など季節ごとに咲く花や、夏の潮風を浴びながらの日向ぼっこ・夕方にはきれいな夕日が差し込むとても恵まれた自然環境の中で、季節を感じる事が出来る。  
・「ホームは家庭の延長」をモットーに炊事・洗濯・掃除など、自分たちが今できる事を役割として、互いに助け合いながら一つの家族となって生活している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3月菜の花に囲まれた事業所は、伊予灘を望む高台に立ち、テラスからは美しい夕日を楽しむことができる。職員心得として掲げている「いつもにこにこ ほかほか家族」には、明るくぬくもりのある一つの大きな家族という意味が込められており、職員は利用者が残された力を発揮しながら、助け合って生活できるよう支援している。事業所では、開設当初より、地域に開かれ頼られる事業所を目指して積極的に地域交流に努め、その成果が出ている。地区の農道の整備や草刈りに参加したり、今年度は高校生と大学生のグループが訪れ、窓拭きや清掃等を手伝った後、利用者と一緒に昼食を食べて楽しいひと時を過ごした。恒例になった餅つき大会は地域住民の参加もあり盛大に行われている。また、今年度、市の要請を受けて地域で開催される認知症予防講座に職員が講師として招かれている。医療面では、専任の看護師を複数名配置して協力医と24時間医療体制を整え、利用者や家族の要望に応じて看取りに取り組んでいる。職員は意欲的に研修に取り組み、さらなるサービスの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印  | 項目   | 取り組みの成果<br>↓該当する項目に○印  |
|---|--|--|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)     | ○<br>1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいの<br>3. 利用者の1/3くらいの<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています<br>(参考項目:9,10,19)    | ○<br>1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)           | ○<br>1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                       | ○<br>1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                 | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○<br>1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くない            |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)  | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66 職員は、活き活きと働いている<br>(参考項目:11,12)  | ○<br>1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う   | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)       | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                     | ○<br>1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:28) | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |  |  |

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームぽかぽか(ふたみ)

(ユニット名) ひまわり

記入者(管理者)

氏名 徳田茂美

評価完了日 平成 29年 2月 3日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価表

| 自己評価              | 外部評価 | 項目   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ)   |
|-------------------|------|--|---|---|
| <b>I.理念に基づく運営</b> |      |  |   |   |
| 1                 | 1    | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている   | <p>(自己評価)<br/>豊かな自然環境の中で季節を感じながら、自分たちのペースで毎日を過ごす。「家庭の延長」をモットーに、職員が寄り添い、利用者が互いに助け合いながら共に生活が送れるよう取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)<br/>開設当初に作成した理念を大切に継承し、職員の心得として、「いつもにこにこ ぽかぽか家族」を掲げてケアに取り組んでいる。「ぽかぽか」には明るくぬくもりのある一つの大きな家族という意味が込められており、職員は利用者が残された力を発揮しながら、助け合って生活できるよう支援しており、ミーティングやケアカンファレンスで課題が見えた時は、理念に立ち返り考えるようにしている。</p>  |   |
| 2                 | 2    | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している   | <p>(自己評価)<br/>地域の行事(運動会・文化祭等)へ積極的に参加している。また、ホーム主催のイベントには、地域住民や民生委員・ボランティアの方々を御招待しているが、まだまだ、日常的なつながりには達していない。</p> <p>(外部評価)<br/>事業所では、近所付き合いを大切にしたいと考え、地区の農道の整備や草刈りに参加したり、地域の行事に積極的に参加している。公民館祭りは神輿を制作して展示したり、3箇所の小学校運動会に参加して子どもたちと交流を楽しんでいる。また、バンド演奏や日舞等のボランティアが多く訪問しているほか、今年度は高校生と大学生のグループが訪れ、窓拭きや清掃を手伝った後、利用者と一緒に昼食を食べて楽しいひと時を過ごした。恒例になった餅つき大会は地域住民の参加もあり盛大に行われている。</p> | 開設当初より地域交流に努め、積極的に地域行事に参加して関係を深めてきているが、管理者は、さらに地域の人々に事業所に来てほしいと考えている。今年度、市からの要請を受けて地域で開催される認知症予防講座に職員が出向き、事業所で行なっている指体操の指導を行っている。講座参加者を通して、さらに地域住民との関係を広げていくことを期待したい。 |
| 3                 |      | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | <p>(自己評価)<br/>運営推進会議やイベントを利用し、利用者と一緒に過ごす機会を作り、認知症についての理解を深めて頂くよう努力している。</p>   |   |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------|------|---|--|-------------------------------|
| 4    | 3    | ○運営推進会議を活かした取組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている      | <p>(自己評価)<br/>活動報告・勉強会・親睦会などをテーマに開催している出来る限り利用者を交えて行える議題を開催し、時には茶話会形式で雑談をしながら、意見・要望が気軽に言える雰囲気を作るなどしている。</p> <p>(外部評価)<br/>運営推進会議は利用者や家族、民生委員、市職員の参加を得て2か月に1回開催している。開催にあたっては、地区民生委員及び家族全員に案内を送付し、開催後は議事録を返送して家族の理解を得られるよう努めている。会議では、活動報告のほか、マイナンバー制度や土砂災害防止等、時々の課題をテーマとして挙げたり、そうめん流しや餅つき大会等事業所行事と一緒に開催し、より多くの人々の参加を得て事業所の理解を深めてもらうとともに、意見や提案を聞く機会にしている。</p> |                               |
| 5    | 4    | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる                | <p>(自己評価)<br/>必要に応じて、訪問や電話で相談し協力して頂いている。運営推進会議に参加いただいた時には、意見・感想・アドバイス等を頂いている。</p> <p>(外部評価)<br/>運営推進会議に毎回市職員が参加しており、情報交換を行うほか、講師紹介や関係機関との連携の取り方等助言を得て運営に生かしている。成年後見制度の活用が必要となった利用者に対し、地域包括支援センターに相談し支援を受けた経験がある。また、市から各種研修会の案内があり、参加している。</p>  |                               |
| 6    | 5    | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | <p>(自己評価)<br/>拘束のないホームを目標に取り組んでいる。年一回は、内部研修の項目として学び、職員が日々の業務や対応を振り返る機会としている。</p> <p>(外部評価)<br/>身体拘束廃止マニュアルを作成して、拘束をしないケアに努めているが、「座って下さい。」という声かけ等が拘束にあたるかどうか曖昧な場面もあり、改めて研修の機会を持った。研修を受けた職員にはレポート提出を義務化し、理解できているかを確認している。転倒の危険のある利用者に対しては行動を抑制することがないよう、寄り添って一緒に歩いている。言葉の拘束についても、職員同士が互いに注意し合っ気をつけている。</p>   |                               |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ)   |
|------|------|---|---|---|
| 7    |      | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている      | (自己評価)<br>年一回は内部研修の項目とし学んでいる。特にホーム内での口調や声の大きさに気をつけ、職員同士で注意し合えるよう努めている。  |   |
| 8    |      | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | (自己評価)<br>後見人制度については、過去に勉強会を開催したが、職員全員が理解できるまでには至っていないため、今後も勉強会の機会を作りたい。現在、地域包括支援センターと連携し、申請中である。   |   |
| 9    |      | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                      | (自己評価)<br>見学時や契約の際、出来る限り丁寧に説明するように努めている。改定事項については、事前に説明文を作成し同意を得るようにしている。契約後も家族が気軽に相談できる関係作りに努めている。   |   |
| 10   | 6    | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                   | (自己評価)<br>運営推進会議や面会時に声掛けをさせて貰っている。意見や要望は、各利用者の担当職員より全員に申し送り周知できるように努めている。<br><br>(外部評価)<br>家族面会時には声かけをして利用者の近況報告をし、その際に家族からの要望も聞くようにしている。来訪が難しい家族には、年2回「ぽかぽか通信」に担当職員が手紙を書いて送り、利用者の暮らしの様子を知らせるようにしている。面会に来る家族が少ないため、不足する物がある時はできる限り買ってきってもらうよう依頼し、来所の回数が増えるよう工夫している。 | 家族が意見や要望を出しやすい関係を築いていけるよう工夫をしているが、様々な理由で疎遠になっている家族も少なくないのが現状である。アンケート調査等を実施して意向や要望の確認を行い、さらに家族との協力関係が深まることを期待したい。 |

| 自己評価                        | 外部評価 | 項目   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|-----------------------------|------|--|---|-------------------------------|
| 11                          | 7    | <p>○運営に関する職員意見の反映<br/>代表者や管理者は、運営に関する職員の見<br/>意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい<br/>る</p>   | <p>(自己評価)<br/>スタッフ会で参加者全員に意見や要望等を発言して貰っ<br/>ている。また、現場で職員と一緒に業務にあたりなが<br/>ら、職員が気軽に相談できる雰囲気作りに努めている。</p> <p>(外部評価)<br/>2か月に1回ミーティングを開催し、ほぼ全職員が出席<br/>して意見や提案を行う機会を設けるとともに、毎月ユ<br/>ニット毎にケアカンファレンスを開催して職員の意見<br/>をケアに反映させている。事業所では人事考課制度を取<br/>り入れ、個人面談を行って職員の頑張りを評価すると<br/>ともに、要望を聞く機会を設けている。また、法人では<br/>研修や資格取得を奨励しており、費用の一部を助成し<br/>たり、職員が講師になって計画的に内部研修を実施す<br/>る等、職員の意欲向上を図っている。</p> |                               |
| 12                          |      | <p>○就業環境の整備<br/>代表者は、管理者や職員個々の努力や実<br/>績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時<br/>間、やりがいなど、各自が向上心を持って<br/>働けるよう職場環境・条件の整備に努めて<br/>いる</p>      | <p>(自己評価)<br/>可能な限り、個々の希望休や勤務時間等を考慮してい<br/>る。職員の資格取得を支援し、職能給や手当として昇<br/>給に反映している。</p>   |                               |
| 13                          |      | <p>○職員を育てる取組み<br/>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケ<br/>アの実際と力量を把握し、法人内外の研修<br/>を受ける機会の確保や、働きながらトレ<br/>ーニングしていくことを進めている</p>               | <p>(自己評価)<br/>個々の資格取得に向け、費用の一部援助や勤務時間内<br/>に研修等に参加できるように支援したり、運営推進会議<br/>を兼ねた勉強会を開催したり、毎月、内部研修を実施<br/>しているが、職員の外部研修への参加意欲が低いため<br/>、改善して行きたいと考えている。</p>   |                               |
| 14                          |      | <p>○同業者との交流を通じた向上<br/>代表者は、管理者や職員が同業者と交<br/>流する機会をつくり、ネットワークづくり<br/>や勉強会、相互訪問等の活動を通じて、<br/>サービスの質を向上させていく取組みを<br/>している</p> | <p>(自己評価)<br/>外部の各種研修に参加する事で、他の事業者と交流<br/>できる機会を持てると考えているが、積極的に研修へ<br/>参加しようとする職員が少ないのが現状であるため<br/>、今後改善して行きたい。</p>   |                               |
| <b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |      |  |   |                               |
| 15                          |      | <p>○初期に築く本人との信頼関係<br/>サービスの利用を開始する段階で、本人<br/>が困っていること、不安なこと、要望等<br/>に耳を傾けながら、本人の安心を確保す<br/>るための関係づくりに努めている</p>             | <p>(自己評価)<br/>入所前に本人と逢う機会を作り、困っていることなど<br/>を伺い情報収集を行っている。入所後も、声をかけたり<br/>他の利用者との日々の会話に耳を傾けるよう心がけて<br/>いる</p>  |                               |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 16   |      | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている     | (自己評価)<br>契約前に何度か話をする機会を作り、聞き取りを行っている。面会時には、必ず声掛けを行い話しやすい関係づくりに努めている。   |                               |
| 17   |      | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | (自己評価)<br>入所前の生活状況をきちんと把握し、ご本人やご家族から得た情報を元に、必要としている支援について話し合い統一したケアが行えるよう努めている。   |                               |
| 18   |      | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                    | (自己評価)<br>「ホームは家庭の延長」1つの大きな家族。職員が支えながら、利用者それぞれが自分の出来る事を、役割として暮らして行けるよう支援している。   |                               |
| 19   |      | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている     | (自己評価)<br>ホームの行事に参加して頂いたり、受診や外食などの定期的な外出支援の協力をお願いしたり、出来る限り利用者さんとの関わりを持って頂く様にしている。   |                               |
| 20   | 8    | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                 | (自己評価)<br>地域周辺からの入所者が多く、地域の行事には積極的に参加している。ご家族の協力により、行きつけの美容室や買い物にも出かけている。   |                               |
|      |      |  | (外部評価)<br>入居時に、センター方式を活用して馴染みの関係を把握し、職員間で共有している。職員は地元の個人商店に付き添って買い物に行ったり、町民運動会、敬老会、文化祭に出かけて知人と出会えるよう支援している。別施設に入所している兄弟に会えるよう付き添うこともある。また、家族に協力を依頼して、馴染みの美容室に行っている利用者もいる。 |                               |

| 自己評価                               | 外部評価 | 項目  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------------------------------------|------|---|---|-------------------------------|
| 21                                 |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                | (自己評価)<br>それぞれが今、できる事を役割とし、互いに助け合いながら暮らせよう支援している。   |                               |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | (自己評価)<br>ご家族に会う機会があれば、様子を伺ったりしている。長期入院の場合、可能であれば、再入所の相談にも関わっている。   |                               |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |   |   |                               |
| 23                                 | 9    | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                        | (自己評価)<br>入所時にご本人やご家族より、今までの生活歴や趣味などの聞き取りを行っている。日々の生活の中での言葉や表情を観察している。<br><br>(外部評価)<br>入居時に利用者と家族から情報を収集し、生活歴や生活環境を把握して理解に努めている。入居後はソファに腰掛けてゆっくりしている時間に話しかけるなど、何気ない昔話の中から思いを汲み取っている。職員は、利用者が思いを表しやすいよう一人ひとりに合った問いかけを工夫し、気持ちを引き出すよう努めている。思いを現すことが困難な利用者は、表情や動作で推測したり、家族に聞いて理解するよう努めている。 |                               |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                    | (自己評価)<br>ご本人やご家族からの情報に加え、入所前の居宅ケアマネからの情報もあわせて把握し、職員間で共有できるように努めている。  |                               |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている                                  | (自己評価)<br>利用者1人1人のリズムで生活をしていただけるよう支援している。1日の様子・状態の変化や気づきを記録し職員間で共有している。   |                               |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 26   | 10   | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | (自己評価)<br>毎月、担当者による介護計画のサービス内容の実施を評価・3ヶ月毎にモニタリング・6ヶ月毎に担当者会議を開催しご本人・ご家族の意向を確認して担当者も交えプランを作成している。<br><br>(外部評価)<br>計画作成担当者が電話等により家族に現在の利用者の状況を伝え、今後どのように生活してほしいか意向を確認した上で、職員と話し合っって介護計画を作成している。担当者を決めて毎月1回モニタリングを行い、状態の変化があった場合はその都度、ない場合は6か月毎にカンファレンスを開催して介護計画の見直しを行っている。介護計画が職員の独りよがりにならないよう、可能な限り家族にも話し合いに参加してもらっている。介護計画書は、家族の面会時に説明して同意を得るようにしており、困難な家族には手紙を添えて郵送し、承諾を得ている。 |                               |
| 27   |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | (自己評価)<br>1日の様子を記録に残し、表情や行動に変化があれば詳しく観察し、申し送りにて情報を共有するようにしている。目標の実施状況を毎日チェックし、統一したケアが出来るように取り組んでいる。  |                               |
| 28   |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | (自己評価)<br>利用者の家庭状況の問題から、生活保護の申請や成年後見人制度の申請を行った事がある。  |                               |
| 29   |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                         | (自己評価)<br>ホームのイベントに民生委員さんなどを御招待したり、2,3ヶ月毎にボランティアの訪問、訪問美容師の来訪などを行っているが、十分な地域資源の活用には至っていない。  |                               |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------|------|---|--|-------------------------------|
| 30   | 11   | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に<br>し、納得が得られたかかりつけ医と事業所<br>の関係を築きながら、適切な医療を受けら<br>れるように支援している                                       | <p>(自己評価)<br/>月2回の内科医往診・必要時に歯科医往診あり。夜間の急<br/>変時には24時間ONコール体制をとっている。また、家族<br/>の協力で以前からのかかりつけ医も継続して利用できる<br/>ようにしている。</p> <p>(外部評価)<br/>利用者と家族の希望に沿って、入居前のかかりつけ医を<br/>継続して受診することができる。協力医が月2回訪問診<br/>療に訪れ、必要に応じて往診もしてもらえるため、入居<br/>時に協力医をかかりつけ医に希望する利用者が多い。歯<br/>科医の往診治療を受けることもできる。また、看護師3<br/>名が職員として勤務しており、日常の健康管理を行って<br/>いる。専門科の受診が必要な場合は家族が付き添って<br/>おり、看護師が必要な情報を提供している。家族の付き添<br/>いが困難な場合は看護師が同行して、治療を継続でき<br/>るよう支援している。</p>                        |                               |
| 31   |      | ○看護職との協働<br>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた<br>情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問<br>看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が<br>適切な受診や看護を受けられるように支援<br>している                          | <p>(自己評価)<br/>利用者の身体の変化や急急変事には、昼夜問わず、看護<br/>師への連絡が可能であり、すぐに対応できる体制をとっ<br/>ている。協力医の指示のもと適切な医療が受けられるよ<br/>う支援している。</p>   |                               |
| 32   |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療でき<br>るように、また、できるだけ早期に退院でき<br>るように、病院関係者との情報交換や相談<br>に努めている。または、そうした場合に備<br>えて病院関係者との関係づくりを行っている。   | <p>(自己評価)<br/>入院の際、情報提供を行い安心して治療が出来るよう<br/>にしている。ケアマネ・看護師が病院の医師・看護師・相<br/>談員等と面談し退院への話し合いを行うなどしている。</p>  |                               |
| 33   | 12   | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支<br>援<br>重度化した場合や終末期のあり方につい<br>て、早い段階から本人・家族等と話し合<br>いを行い、事業所ですることを十分に説明<br>しながら方針を共有し、地域の関係者と共<br>にチームで支援に取り組んでいる | <p>(自己評価)<br/>早い段階で主治医・家族を交え、病状について・今後の<br/>方針・本人や家族の意向等を話し合っている。ホームで<br/>出来ることをきちんと説明し、状況が変化する度に状況<br/>説明を行っている。過去3名の看取りを経験。関わった職<br/>員のケアにも注意を払うように努めている。</p> <p>(外部評価)<br/>看取りに関する基本指針を作成し、利用者と家族の要望<br/>に応じて看取りを行っていく方針を入居時に伝えてい<br/>る。事業所は3名の看護師が配属され、内1名は夜間専<br/>門の看護師として勤務しており、協力医と連携しながら<br/>24時間医療体制を整えて緊急に備えている。今までに<br/>3人の看取りを経験し、穏やかな最期を看取った経験は<br/>職員の自信にもつながっている。事業所では看護師が講<br/>師になって研修を行い研鑽を積むとともに、職員アン<br/>ケートを取って今後の看取りに生かそうとしている。</p> |                               |

| 自己評価                             | 外部評価 | 項目   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|----------------------------------|------|--|---|-------------------------------|
| 34                               |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | (自己評価)<br>ホーム内の研修として救急救命士の指導による訓練を開催し、急変時に素早く対応できる技能を身につけられるようにしている。今後も講習会を継続して行いたい。  |                               |
| 35                               | 13   | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | (自己評価)<br>年2回避難訓練を行っている。土砂災害危険区域が近いため年1回は、伊予市合同の土砂災害避難訓練に参加し訓練している。昨年、県政出前講座を利用し、土砂災害についての勉強会を開催した。また、3日分程の備蓄品を準備している。<br><br>(外部評価)<br>年2回、日中と夜間を想定し避難訓練を実施している。事業所が土砂災害危険区域に指定されており、年1回行われる伊予市合同の土砂災害避難訓練に参加して検証を重ねている。今年度は運営推進会議に愛媛県担当課職員に来てもらって講演を聞く機会を持ち、避難計画策定にあたっての留意点について指導を受け、計画を作成することができた。また、備蓄品については、3日分の水や食糧等を戸外にロッカーを設置して収納し、定期的に賞味期限の点検を行っている。 |                               |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |   |                               |
| 36                               | 14   | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている         | (自己評価)<br>威圧的になら無いよう注意し、どうしたいのか？問いかける声掛けをして利用者の意思が尊重できるよう努めている。また居室やトイレの扉の開閉にも注意している。<br><br>(外部評価)<br>利用者一人ひとりの気持ちを尊重し、希望に沿った支援ができるよう努めている。職員は、利用者がしたいと思うことを利用者のペースで自由にしてもらえるよう心がけている。利用者と呼ぶ時は姓や名前にさん付けで呼ぶのを基本とし、過度な馴れ合いにならないよう配慮している。また、個人情報の取扱いには十分に留意しており、適切に管理している。  |                               |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている           | (自己評価)<br>利用者の意思が確認できるように「～しますか？」[どうしますか？]と問いかける声かけをし自己決定が出来るようにしている。   |                               |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 38   |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | (自己評価)<br>ケアプランや日課に添って本人のペースで1日が過ごせるよう支援している。出来る限り本人の希望を優先するように努めているが、時にはホーム側の都合で動いてしまう事もある。  |                               |
| 39   |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | (自己評価)<br>ボランティアの美容師さんにカットをお願いしたり、可能な方にはご自身で洋服を選んで更衣して頂いている。外出時にはお化粧などをしておしゃれを楽しむ事が出来るよう支援している。   |                               |
| 40   | 15   | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている     | (自己評価)<br>その日の食材の下準備から、盛り付け・配膳・下膳・後片付けまでが日課となっており、全ての利用者が何らかの作業に関われるようになっている。また、「試食会」を開催しご家族と一緒に昼食を食べ、利用者の作業風景を見て頂いたり、味の感想等を伺う機会を設けた。   |                               |
|      |      |  | (外部評価)<br>専任の調理員2名が献立を立て、ユニットで調理をしている。栄養バランスを考え、減塩食になるよう必ず酢の物を献立に入れるように決めている。野菜の多くは事業所の畑で収穫することができ、その他の食材は週2回利用者とともにスーパーに買いに行っている。利用者は食材を切ったり、食器を洗うなど、できることを手伝っており、各自が食膳を運んでいる。誕生日には特別に工夫したケーキを作る等して皆で祝っており、つくし料理、柏餅、そうめん流し、餅つき等季節毎に特別メニューを用意して楽しんでいる。ドライブ先で外食をすることもある。 |                               |
| 41   |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | (自己評価)<br>水分・食事の摂取量のチェック表を使用し1日の摂取量の把握に努めている。荒刻み・小刻み・水分にトロミをつけるなど、個々にあった食事形態で提供している。  |                               |
| 42   |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                  | (自己評価)<br>毎食後、口腔ケアの声掛けを実施し、見守り・介助を行っている。毎晩就寝時に義歯を洗浄剤で消毒し清潔が保てるよう支援している。   |                               |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------|------|---|---|-------------------------------|
| 43   | 16   | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている          | (自己評価)<br>排泄チェック表を使用し、定期的にトイレ誘導を実施している。日中は利用者全員が可能な限りトイレでの排泄が出来るよう支援している。夜間帯は個々にパットを使用したり、ポータブルトイレを設置したりして対応している。<br>(外部評価)<br>一人ひとりの排泄パターンを記録して把握し、2時間おきに声をかけてなるべくトイレで排泄ができるよう支援している。入院中おむつを利用していただいていた利用者に対し、生活の中でリハビリを続けながら、職員が誘導をすることでトイレで排泄ができるようになった利用者もいる。利用者の排泄の状態によって職員が話し合い、家族とも相談しながら適した排泄用品を選択し、気持ち良く過ごせるよう、また自立に向けた支援に努めている。 |                               |
| 44   |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                          | (自己評価)<br>十分な水分摂取と適度の運動を日課に取り入れている。排便排尿チェック表を使用し、排便の有無を管理し、看護師に報告のうえ、薬を服用するなどの対応をしている   |                               |
| 45   | 17   | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | (自己評価)<br>入浴日の設定はあるが、午前中からお湯を貯めており、職員の声かけで誘導している。声かけの時点で拒否された場合は、少し時間を空けて再度声掛けを行ったりしている。支援方法は、見守りや全介助・一部介助・同性介助・二人介助など個々に合わせている。<br>(外部評価)<br>夏季は週3回、冬季は週2回入浴ができるよう支援している。利用者の状態に合わせて適切な福祉用具を活用し、浴槽に入れるよう介助している。浴槽への移動が困難な利用者は2人体制で入浴介助を行っている。職員は利用者が好きな時に好きな時間ゆっくりと入ってもらえるよう利用者のペースに合わせて支援している。時には入浴剤を入れて、気分転換を図ることもある。                  |                               |
| 46   |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している                           | (自己評価)<br>夏は涼しく、冬は暖かく季節に応じて熟睡できるように寝具を準備したり、個々の希望で湯たんぽやあんか・電気毛布を使用している。シーツやカバーの洗濯・布団干しをこまめに行い気持ちよく眠れるよう支援している。  |                               |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 47   |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている   | (自己評価)<br>誤薬が無いよう注意し、名前を確認しながら服用して頂いている。薬に変更があった場合には、看護師より職員へ申し送りを行うようになっている。  |                               |
| 48   |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                              | (自己評価)<br>利用者は炊事・掃除・洗濯の中で、自分が得意とする事や今現在できる事を役割としてお互いに助け合って生活している。気分転換を兼ね、車椅子の方は車で、元気な方は歩いて買い物へ行ったり、季節ごとに外出も計画して実施している。   |                               |
| 49   | 18   | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | (自己評価)<br>週2回の買い物やドライブ・行事参加に加え、ご家族にも外出支援の協力をお願いしている。地元出身の利用者が多く、散歩をかねてお墓参りに行ったり春には、ホーム周辺の畑や土手をつくしやふきを取ったり、年末の餅つき用にヨモギを摘みに出掛けたりしている。<br>(外部評価)<br>天気の良い日は事業所周辺を散歩したり、週2回の買い物の日は利用者も一緒に出かけている。診療所に薬を取りに行く時は福祉用車輛を使用して、車いすの利用者を優先して一緒に出かけている。職員はできる限り全員の利用者が外出できるよう支援しており、春の菜の花や桜見物には弁当を持って出かけたり、地区で開催される盆踊り大会や秋祭り、他事業所で開催される納涼祭、公民館文化祭等積極的に外出している。双海トライアスロンを応援に行った時の様子は市の広報で紹介された。 |                               |
| 50   |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している                              | (自己評価)<br>一部の利用者ではあるが、外出時に買い物ができるよう支援している。持っていない方はホームで立替えて買い物したり、ご家族に面会を兼ねて買って頂いたりしている。  |                               |
| 51   |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | (自己評価)<br>希望時に固定電話を使用してご家族とやり取りができるようにしている。手紙や電話の対応が難しい方が多いため、出来るだけホームに足を運んで頂く様にご家族にお願いしている。   |                               |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容<br>(外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 52   | 19   | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価)<br>各ユニットに利用者が作成したクラフト作品を飾りつけたり、写真を貼ったり、花を飾ったりして季節感を出している。各居室に利用者の表札を飾り、自分の部屋だと分かるようにしている。<br><br>(外部評価)<br>リビングにはオープンキッチンとダイニングテーブル、掘り炬燵のある畳の間があり、雛壇が飾られている。両ユニットの仕切りは開放されており、利用者が自由に行き来できる。壁には、利用者と職員が協力して作成した季節毎のクラフト作品が飾られている。テラスからは伊予灘を一望することができ、夕日を楽しむこともできる。事業所に広大な菜園があり、春先につくしが出来る利用者は楽しみにしている。 |                               |
| 53   |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | (自己評価)<br>廊下の所々に椅子やソファを置いており、自分たちの好きな所で座ってくつろげるようにしている。畳スペースもあり、そこは掘りコタツが設置できるようになっている。   |                               |
| 54   | 20   | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | (自己評価)<br>使い慣れたダンスや布団の持ち込みを可能にしており部屋の壁には自分で作った作品を飾っている。仏壇を持ってこられている方や家族との写真なども飾られている。<br><br>(外部評価)<br>居室にはベッド、テレビ、椅子、オイルヒーターが備え付けられており、利用者が自宅から持ち込んだ家具や事業所が用意した様々な形の家具が置かれており、どの部屋も異なった雰囲気や個性が感じられる部屋になっている。高齢の利用者の部屋には裁縫道具が置かれ、習字を書いている写真が飾られていて生活の様子を伺うことができる。本人が作成したクラフト作品や家族写真を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫されている。    |                               |
| 55   |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している  | (自己評価)<br>洗面所に口腔ケア用品を置ける棚に名前を表示する事で迷わず自力で使用することができている。居室入口には表札をかけたたり、作品を目印代わりに飾りつけたりしている。   |                               |